●Practical English3・4
●外国語学習の理論と実践Ⅰ・Ⅱ
●キャリア　イングリッシュⅠ・Ⅱ


# 石渡 華奈 准教授

**【いしわたり かな】**
東京外国語大学英米語学科卒業後、千葉県高等学校英語教諭。東京外国語大学大学院博士後期課程満期退学後、東海大学外国語教育センター専任講師、文京学院大学外国語学部准教授を経て現職。猫をこよなく愛し、趣味は猫。猫グッズや猫本コレクターです（本当は生きている猫に囲まれて暮らしたい）。


## 外国語学習の「なぜ？」を知る

わたしの専門は大きな分類では「英語教育学」という分野になりますが、この分野ではあまり主流ではない（むしろきわめてマイナーな）領域、テーマに関心を持っています。たとえば、母語の表記体系は学習対象言語の語認知・語習得にどのような影響を与えているのだろうか、「読みやすい」ってなんだろう、より良い英語教材開発ためのレイアウト論を構築できないだろうか、などです。“文字”つまり書き言葉の物理的な側面にどうにも魅力を感じてしまうのです。

英語学習を始めた子どもたちは、口頭であいさつや単語ゲームなどをしている期間はそれほど大きな違いはないのに、読み書きの学習を始めた途端にどんどん能力差（学力差）が出てきてしまうといわれます。それはなぜなのでしょう？

母語ですでに獲得した知識や技能、習慣が第二言語の習得に影響を与えることを「転移」といいますが、実は皆さんの英語学習でもさまざまな転移が起こっています。皆さんは初めて見る英単語を発音することはできますか？英語の発音は難しいですか？　単語のつづりを覚えるのはたいへんですか？それはなぜでしょう？

これらの「なぜ？」を知ることは、「じゃ、どうする？」をみつけるためにとても役に立ちます。脳の働きや記憶のメカニズムを知れば、単語学習は努力と根性だけでは報われないということがよくわかります。単語の意味を必死に覚えても、それだけでは使える英語は身につかない。ではなにが必要かということが、言語情報処理のしくみや知識の構造などを知ると見えてきます。「外国語学習の理論と実践Ⅰ・Ⅱ」の授業では、皆さんにこの「なぜを知る」ことによって、日常ほとんど英語を使う必要性のない環境にある者が英語を身につけようとする場合の効果的な学習法を一人ひとり探ってもらいたいと思っています。必修英語科目では、履修を終えても一人で続けていけるようなトレーニング方法を身につけてもらえたらと思いメニューを考えています。

英語というツールが使えると、得られる情報やサービスの幅と選択肢が増えます。知識が増えると、情報やサービスをどう利用するかという知恵が働きます。英語は嫌いと諦めてしまった人も、英語が使えるようになりたいとやる気のある人も、違う方向から英語（学習）を眺めてみませんか。

**外国語学習の理論と実践は記憶の原理を理解し、どのように日常の英語の学習に生かしていくかを探究する内容です。講義は英語で進められ、積極的な講義への参加及び発言が求められます。本学の中でも英語で進められる講義は珍しいので興味をもった方は是非履修してみてはいかがですか。他の講義とは違ったおもしろさを実感することができます。**
2009年入学　稲毛　和磨

母講生のひとこと